

ネパール被災地を視察して

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン
理事長 マナングール マダーブ ナラエン

今月号(9月号)の印刷日は8月30日、その前日29日にこの巻頭言を執筆中、今ネパールの一部で心配されていることに考えが及んだ。4月25日のネパール大地震はネパール歴の1月12日に当たる。8月29日はネパール歴の5月12日に当たり、ネパール歴では地震からちょうど4ヶ月が経ったことになる。地震当日は土曜日、休日で満月であった。4ヶ月目の8/29(5/12)も土曜日で満月である。まるで同じ並びになった4ヶ月目に信心・迷信深い人々は不安を覚えているようだ。それほどまでに人々を驚かせ恐怖に陥れた大きな地震だったのだ。

8月10日から26日までネパールへ帰国した。日本での生活がネパールのものより長くなっている私は日本へ戻る時も帰国と使ってしまう。

初めて見る被災地の状況は凄かった。里子がいる被災地の村々、ダルマスタリ村、カブレスタリ村、シンドゥパルチョク郡、サンク村などを訪れることができ、カトマンズ町の被災状況も見て回った。

● カトマンズ町の被災状況

カトマンズはネパールの首都であり、私の生まれ育った町でもある。そのため町の殆どの場所や寺院を知っている。実家や家族の住まいは町の中心にあり、地震の影響が心配だった。実際にこの目で見て無事が確認でき安心した。



スワヤンブ寺院からカトマンズを望む



クマリ寺院前広場にある被災者支援のテント

しかし被災した方々や亡くなられた方々を想い、また幼い頃、遊んだり目にしてきた寺院や建造物の倒壊を見て、悲しみでいっぱいになった。私が最もショックだったのはカトマンズ町の名前の由来であるカスタマングップ寺院や多くの世界遺産の建造物の倒壊や損害であった。これらは実家から300Mの近さである。



二重塔カスタマングップ寺院があった場所



三重塔ナラエン寺院があった場所



バサントプール広場の旧宮殿の一部



クマリ寺院中庭で建物を支える棒

カトマンズでは鉄筋が施された新しい家でさえも壁のひび割れなどが多く見受けられる。角地にあった古い家々は殆どといっていいほど壊れた。



角地にある壊れた古い建物

8月12日、ミランクラブネパールから地震の支援活動の報告を受けた。実際に何度も被災地を見たスタッフは、これから冬に向かい、復興が遅々として進まない状況を心配している。

村々の学校の倒壊で子供たちは青空教室、地震のため水が出ないところもあり、政府の支援もまだまだのようである。ミランクラブからの支援が里子の通う多く

の学校から期待されているという。これからの支援、支援方法、優先順位を話し合い活動していくのも大変なようだ。



MCNのミーティング

● ダルマスタリ村の被災状況

ダルマスタリ村にはミランダルマスタリ学校があり17年前に職業訓練所を建て、学校や寄宿舎を運営してきている。私たちの里子もいる。

8月18日、MCNメンバーの案内でダルマスタリ村を訪れた。この時はネパール訪問中の小林理事も参加された。学校到着後、スニタ・ナカルミ副校長から学校の現状の説明があった。その後、仮校舎を案内された。



仮校舎で学ぶ生徒たち



臨時教師としての元里子スミトラ・アディカリ



学校前で左からルパク先生、アマル副会長
サガル会計担当、小林理事、ディパク相談役
スニタ副校長

小林理事には生徒たちから多くの質問があった。小林理事はそれぞれにネパール語と英語を使い丁寧に答えていた。また地震の被害状況を視察に来て、そしてできる限りの支援をしたいと述べた。



MDS 生徒の質問に答える小林理事

校舎内の教室は使えない状態だった。1階の教室は水浸しになっており、校舎入口にも水が溜まり、これは地震の影響によるものと思われる。2、3階の教室にも壁に小さいひびが入っており、修復を行う予定である。



浸水した教室



1階になった職業訓練所(右)

職業訓練所は学園村で一番古い2階建ての建物である。地震による地盤沈下と2階部分の一部が壊れ亀裂が発生したため、先月号でお知らせした通り、建設省検査官から使用禁止の<赤>ステッカーを貼られている。2階部分は解体終了しており、1階部分は今後の支援計画が決まり次第、解体するかどうかが決まる。

梁に亀裂が生じた同じく<赤>ステッカーだった図書室は、蔵書を移動して空っぽ状態で閉鎖されている。いずれ解体される予定。

学校視察後、ダルマスタリ村の被災地をスニタ・ナカルミ副校長が案内してくれた。ダルマスタリ村は、MDSの生徒や先生たちの多くが住んでいる。家屋の倒壊で下敷きになり亡くなったアンジャリ・ガーレもこの地域から通っていた。



アンジャリ・ガーレを失い悲しむお母さん

副校長宅も全壊して現在の仮設先を訪問した。あとラトナ先生とバンダリ先生の仮設先も訪問した。そして帰り道、ミランクラブからの義援金で仮設した3年生の里子の家にも寄った。



倒壊した自宅跡地に建てられた副校長の住まい



トタンと廃材でできた仮設が並ぶ住宅跡地

学校と村の往復は雨の中、傘をさし、田舎道でぬかるんでいる道なき道を滑ったり、つまずいたり、小さく転んだり、片道1時間かかっていたようだった。町から来た一行はちょっとしたトレッキングをしているように感じた。



被災したダルマスタリ村へ向かう一行

地域全体の被災状況を見て、これからの復興の大変さを感じた。

ダルマスタリ村から学校へ戻り、ミランクラブジャパンからの被災里子への義援金をミランクラブネパール副会長アマル・マリ氏へ渡した。岐阜ロータリークラブ関係、積水ハウス、日本工業大学関係からの学校への義援金をスニタ副校長へ渡した。被災した14名の教職員(全20名)にも義援金を渡した。小林理事は日本から持参した川口市立幸並中学校、県陽高校からの励ましの寄せ書き、ミランク

ラブジャパンメンバーからの励ましのメッセージカードを手渡した。またチャリティーコンサートを行った「マリカ大宮西口店」のゴータム氏を通しての医療品の寄付も渡した。



MCN 役員と MDS 教職員を交えての会合



積水ハウスからの義援金を渡す



のどかな田園風景が広がるダルマスタリ

震災後初のネパール訪問で、関係先や多くの被災者から素早い支援への心からの感謝の言葉、笑顔があり、日本から勇気づけられたことを喜んでいました。皆様のお陰で活動でき、途切れることなく続いている義援金のご協力に感謝致します。
～次号へ続く～